

# アベノミクスと日本経済

東京大学大学院教授、NIRA理事長  
伊藤元重

- \* 昨年夏に安心感が広がり始めた
- \* 「失われた3年半」に二つの仮説
- \* 「退路を断つ」金融政策
- \* 大きなイシューの財政健全化
- \* 財政健全化に二つの異なった問題
- \* 財政再建に重要な医療における戦略
- \* 日本に足りないのは「男の子」だ
- \* TPPは成長戦略の大きな入り口
- \* 絶好の投資機会になる課題解決



**浅野** 伊藤さんにはたくさん話していただき

たいということですが、少し早いです。開会します。  
(拍手) もうご紹介するまでもないと思いますが、こちらでも少なくとも10回はお願いしています。東京大学で教鞭をとられているほかに、NIRAの理事長とか、現在、経済財政諮問会議の議員として活躍されています。経済財政諮問会議のほうは月3回ぐらいの会合だけでも、その準備で打ち合わせが何回もあって大変です。うです。しかし、こういう状況なので気分よくやっておられるのではないかと思います。

今日は伊藤さんが9階まで階段を上ってこられたのにはびっくりしました。肉体的にもまだまだお元気ということで、今後大いに活躍していただきたいと思えます。それではよろしく

お願いします。(拍手)

**伊藤** 伊藤です。前回、去年2月頃にお邪魔したときはすごい暗い話をしたのではないかなと思います。デフレが長く続いて、デフレそのものは物価が下がっていくという現象ですけれども、その間に企業も家計もみんな後ろ向きになって、カネは使わないで貯蓄し、その貯蓄のカネが国債へ流れていき、政府が借金していても国債の金利は非常に低い状態が続いてきました。

それで、なんとなく足元で回っていて、不安な安定が続いていたわけですけれども、このままいったら債務がどんどん増えていって、ドカンと来るのではないかと、そういう厳しい変化にわれわれは備えなければいけないという話をし